

R P P Cメール

リサイクルポート推進協議会

第574号（平成27年4月8日発行）

【今週号の主な内容】

■ 《今週の報道発表》

今週の報道発表はございません

■ 《RPPC 事務局からのお知らせ》

事務局からのお知らせはございませんが、ご所属や連絡先の変更、ご担当者様の変更等がございましたら事務局までご一報願います。

■ 《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 井本商運、「低炭素型静脈物流促進事業」を展開中
2. 井本商運、建設発生土を釜石港から八戸港に海上コンテナ輸送
3. 国土交通省港湾局環境政策室長に中原正顕氏

=====

1. 井本商運、「低炭素型静脈物流促進事業」を展開中

井本商運は昨年度から、国交省と環境省の連携事業である「モーダルシフト・輸送効率化による低炭素型静脈物流促進事業」に取り組んでいる。取扱量も増えつつあることから、引き続き営業展開を図って循環資源の海上輸送方式の拡大に寄与して行く方針。

井本商運は国内54港を結ぶ37のコンテナ船内航ネットワークを有しており、2011年からは一般コンテナ貨物との相積みにより産廃や汚染土壌、建設発生土等の循環資源もコンテナに入れて輸送している。

そして昨年度からは国の補助を得た社会実験として、循環資源の貨物輸送をベースとした定期航路を開設。苫小牧港、仙台塩釜港、横浜港、四日市港、神戸港を結ぶ北海道～阪神ルート、また横浜港、四日市港、神戸港、福山港、宇部港、北九州港を廻る京浜～九州ルートの2航路により廃棄物を集貨し、リサイクル化や有価物の再生工場等の需要地に卸している。

取扱品はコンテナ輸送の特質を活かし焼却灰、廃油、汚染土壌、木くずや古紙など種類も広がっている。同社では社会実験で明らかになった課題を拾い上げて、引き続き循環資源の海上輸送拡大に努めて行く。

【港湾空港タイムス】

.....

2. 井本商運、建設発生土を釜石港から八戸港に海上コンテナ輸送

井本商運は釜石市の発注により、東日本大震災の復旧・復興事業で発生した建設発生土をコンテナに入れて八戸港に海上輸送する事業を開始している。工期は今年3月半ばから8月までで、土砂貨物量は1万8000t、約1000TEU。

同輸送は土砂の積卸に開発された「オープントップコンテナ」を使用。同コンテナは天井が開くほか、ダンブアップ方式になっており、土砂の積卸が容易。

事業は3月13日に釜石港のコンテナバースから初積み出しし、14日には八戸港に荷揚げした。概ね週1便で運航中。陸揚げした土砂は八戸セメントがセメント材料として活用する。

【港湾空港タイムス】

3. 国土交通省港湾局環境政策室長に中原正顕氏

国土交通省の4月1日付人事で、森信哉港湾局環境政策室長が秋田県建設部港湾技監に異動になり、その後任に中原正顕氏（沖縄総合事務局開発建設部港湾空港指導官）が着任した。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

木村 竜也 東京都

加賀谷 聡一 (株)酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱(株)

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

#####